

予 算 決 算 委 員 会 会 議 録

開会日	令和4年3月24日（木）午前10時30分
閉会日	令和4年3月24日（木）午前11時30分
場 所	長久手市役所本庁舎 2階 議場
出席委員	委員長 山田かずひこ 副委員長 なかじま和代 委 員 青山直道 石じまきよし 伊藤真規子 大島令子 岡崎つよし 加藤和男 川合保生 木村さゆり ささせ順子 さとうゆみ 田崎あきひさ 富田えいじ 野村ひろし 山田けんたろう わたなべさつ子
欠席委員	な し
欠 員	な し
会議事件のため出席した者の職氏名	市長 吉田一平 市長公室次長（人事、情報担当）兼情報課長 横地賢一 市長公室次長（秘書、企画政策担当）兼秘書課長 若杉玲子 総務部長 中西直起 次長（行政、財政担当）加藤英之 財政課長 嗟峨 剛 くらし文化部次長（たつせがある、文化の家担当）兼たつせがある課長 磯村和慶 福祉部次長（保険医療、健康推進担当）兼健康推進課長 浅井俊光 長寿課長 粕谷庸介 子ども部次長兼子ども未来課長 飯島 淳 教育総務課長 貝沼圭子 <p style="text-align: right;">計 11 人</p>
職務のため出席した者の職氏名	議長 伊藤祐司 議会事務局長 水野敬久 議事課長 福岡弘恵 議事係長 吉田菜穂子
会議録	別紙のとおり

別紙

委員長 開会宣言  
市長 あいさつ

### 議案第 27 号令和 3 年度長久手市一般会計補正予算（第 13 号）

財政課長 議案第 27 号について説明

歳出 3 款 2 項 児童福祉費<新たな連携によるつながりの場づくり緊急支援事業>

大島委員 子ども食堂を実施するとのことであったが、現在子ども食堂は市内ではどのくらいの法人が運営していて、新たに連携する N P O 法人は既に子ども食堂の実績があるのか。

教育総務課長 現在市内で活動している団体は 1 団体と確認している。新たに連携する団体はまだ決まっていない。この事業のために、新たに子ども食堂の活動をすることが補助金の条件になっているので現在子ども食堂の活動をしている団体は対象とならない。

大島委員 予算額 20 万 1,000 円の内容はどのようなか。

教育総務課長 子ども食堂にかかる人件費、交通費、食材、光熱水費を含めた費用を積算した。

大島委員 子ども食堂を何回開催できるのか。

教育総務課長 補助金交付申請をし交付決定を受けてから準備期間が必要なため、10 月から 6 か月で月 2 回程度実施してもらうことを検討している。

ささせ委員 食事の提供や子どもの居場所作りだけでなく、地域の交流拠点の役割もあるので、可能な限り身近な場所にあることが望ましいと考える。今回実施してもらう団体に対して市内の公共施設の活用を許可し、子ども食堂を点在させる働きかけも可能と思うが、現段階ではどのように考えているか。

教育総務課長 まずは国の交付金を活用し、緊急的に子ども食堂を 1 か所立ち上げて支援の必要な子どもを行政へつなぎ連携をとることが補助金の目的であるためそれを第一の主眼とし、公共施設の使用については、今後、定着していくにあたり課題となれば検討することになると思うが現段階では考えていない。

わたなべ委員 予算額が少ないと思うが、市からの援助は考えていないのか。

教育総務課長 今回の予算は国からの交付金の対象経費が 10 分の 10 の補助であり、市の補助はなく、この予算の範囲内で実施してもらうことを考

えている。

富田委員 NPOも法人と任意団体とあるが区別はあるのか。

教育総務課長 国の交付金の要綱は、法人格の種類や有無は問われないことになっているので、交付金の目的に沿って実施してもらえる団体をお願いしたい。

田崎委員 補助金は市の申請の積算額のとおり満額なのか、もう少し多く申請ができたのではないか。

教育総務課長 委託先が決定していないため、子ども食堂を実施しているところのおおよその費用を積算した。この予算で国に申請していきたい。

財政課長 本事業は国の補助基準額が1事業あたり上限250万円と示されている。市内の資源と現状を勘案し過大な要求もできない中で最低1か所は契約できると見込み要求額を設定した。

大島委員 教育総務課が取り組むということは、補助金が単発的であったとしても令和5年度以降もこれをきっかけに続けていくという展望があって補助金を申請したのか。子ども食堂に対する今後の市の方針はどのようなか。

教育総務課長 今回、教育委員会が民生費で予算計上している。コロナ禍で事業が一時的に子ども部に集中したため、新たに交付金のメニューに追加されたこの事業を最初の1年目は教育部が担当することになった。今回はこの交付金を活用して連携の場を作るということで、将来的に事業が継続するかどうかは、関連する部署との整理検討が必要である。今回は令和3年度の補正予算であるが繰越明許で実際は、令和4年度に事業実施となる。令和5年度以降は国の予算化が確証されていないため、財源の確保も含め検討することになると思う。

田崎委員 補助金申請額が上限250万円のところ、本市の予算の積算は子ども食堂を12回実施で1回あたり1万6,600円になるが参加人数はどのくらいで積算したのか。またいつから公募するのか。

教育総務課長 子どもの参加人数は1回あたり20人分を想定している。募集に関しては公募か、10月から新たに事業展開をしてもよいという団体があれば調整するのかまだ決まっていないが、早急に決める必要がある。

さとう委員 今回、民生費補助金で教育総務課が担当であるが、就学援助を受けている世帯の子どもなど本当に支援が必要な子どもを子ども食堂へつなぐという目的もあるのか。

教育総務課長 今回の事業は例えばNPO法人に委託すると、その法人が子ども

食堂の運営をすることにより、支援が必要な子どもを行政へつなぎ、行政はさらに次の支援につなぐことが目的である。就学援助を受けている世帯の子どもをつなぐのは交付金の趣旨とは異なり、そのような場合は行政が次の支援につないでいく必要がある。支援が必要ということを行政が把握していない子どもたちを、子ども食堂を通して見つけてつないでいくことが目的である。

さとう委員　今回は1団体しか実施できないが、公平性を保った選定はどのように行うのか。

教育総務課長　委託先を決める方法がまだ決まっていないため、委託先の選定は並行して検討していく。

質疑及び意見を終了

討論

反対討論　なし

賛成討論　なし

採決

賛成全員により、原案のとおり可決

## 議案第 28 号令和 4 年度長久手市一般会計補正予算（第 1 号）

財政課長説明　議案第 28 号について説明

### 歳出　3 款 1 項　民生費＜生きがいセンター運営事業＞

大島委員　生きがいセンター厨房改修工事の工期はどのくらいを想定しているか。

長寿課長　これから詳細設計を組むが時期は7月から8月を予定している。

大島委員　新型コロナウイルス感染症が拡大する前は「おふくろの味処」のスペースでお弁当を食べることができた。新型コロナ収束後もお弁当の提供とテイクアウトの両方ができるようになるための改修か。

長寿課長　新型コロナ収束後に対する改修だけではなく、市の食の自立支援事業のサービスの提供を拡充するための改修でもある。

大島委員　お弁当のテイクアウトに新しく事業内容が加わるということか。

長寿課長　現在テイクアウト用にお弁当を30食作っている。厨房を改修することで20食増え50食作る予定である。今のところテイクアウトを

中心に考えているが、増えた分を市の事業に回していけるような事業展開を考えている。

歳出 2款1項 情報化施策費<情報化推進事業>

- さとう委員 本市は交付金申請区分のデジタル実装タイプ（TYPE1）で申請する。TYPE1とは他の地域で既に確立されている優良なモデル等を活用し迅速な横展開を行うとあるが、3つの委託はどのようなところに委託するのか。
- 情報課長 委託先は未定である。今回は、デジタル技術を活用し地域課題を解決するため既の実証、導入されているモデルやサービスを活用することから先進事例でシステム提供している事業者等を対象としたプロポーザル等の選定方法になると考えている。
- 田崎委員 財政課長 DX事業の各保守管理委託のランニングコストは市費となるのか。他の先進地のシステムを活用するため、システムの使用料や保守料は市費となる。
- 田崎委員 財政課長 市職員ではできない委託内容なのか。職員ではできない部分を委託する。
- 田崎委員 共助型マッチングシステムの移動支援の主体はボランティアとのことであるが具体的にどのような方が担うのか。
- 長寿課長 移動支援を支えるボランティアは約5人が手を上げている。今後周知を行うため増える可能性がある。
- 田崎委員 地域ポイントアプリ使用者は何歳からが対象か。また統合するポイントアプリはどのようなアプリか。
- 情報課長 令和4年4月1日から市が主催する活動に参加する小学生以上が対象になる。ポイントを付与する事業は、ながくてスマイルポイントの他、市民の活動全般を対象にしていきたいと考えているため、健康マイレージ事業、環境ポイント、ウォーキングポイントを集約できるようアプリを作りこんでいきたいと考えている。
- 秘書課長 ながくてスマイルポイントは統合していきたいが、健康マイレージや既存のものが確実に統合できるか精査できていないのが現状である。
- 田崎委員 統合するにあたりどのようなシステムになるのか。また、既存のながくてスマイルポイント事業の登録者が伸び悩んでいるとのことだが現状の人数と想定している人数はどのくらい乖離しているのか。
- 秘書課長 先進事例は枚方市のポイント制度を参考としているが必ずしも本市にそのままあてはまるわけではない。スマイルポイントを統合し、

ポイント還元者数は令和4年度450人を目標に、3年後600人を目指す。

大島委員 DX事業化することにより、移行期間には現在の委託費等と新たなシステム委託費の両方が必要となるが将来的には人件費、事務費の削減を求めているのか。

財政課長 デジタル化による移行期間には、既存の様々なシステムの委託費用と新たなシステム保守委託費用が並行して稼働することも考えられる。移行後は新たなシステムを活用することにより事務の効率化が進み、最小の予算で最大の効果をあげることにつながると考えている。

さとう委員 令和3年度補正予算で内閣府が200億円計上しているが、県内では本市のみの取組なのか。

財政課 県内では20以上の自治体が国からの採択の内示を受けている。

長寿課長 先ほどの発言の訂正をしたい。生きがいセンター厨房改修工事の期間は9月から12月までの工期を予定しており、オープンは年明けを目指している。

質疑及び意見を終了

討論

反対討論 なし

賛成討論 なし

採決

賛成全員により、原案のとおり可決

委員長 委員長報告は委員長と副委員長への一任を確認。

委員長 閉会宣言

午前11時30分終了

以上、要点筆記は会議内容と相違ないので署名する。

令和4年3月24日

予算決算委員会委員長 山田かずひこ